

カフェ・喫茶店が高齢者とうろう高齢者の生活の質に与える影響 —土佐町の事例と京田辺市のコミュニティカフェの事例から—

考察

コミュニティカフェでの就労

～中略～

今回の聞き取り調査においてはコミュニティカフェで働くことは、楽しく、やりがいがあるほか、働きやすく、稼いだ賃金が生活の足しになるため、コミュニティカフェで就労することへの満足感が高かった。コミュニティカフェで就労する際の楽しみは、前章と同じく友人や知人との会話及び食事であった。聞き取り調査により、ここでいう友人や知人が同僚を意味すると判断した。ろう高齢者にとって、コミュニティカフェでの就労は、重要なコミュニケーションの機会を得られる場となっていた。それに対して、デイサービスの場合は、デイサービスの利用者や職員には障害を持たない人が多く、手話が通じにくいいため、ろう高齢者には、つまらない、良い印象を持たない場であると認識されている可能性がある。デイサービスでは、コミュニケーション手段として手話の次に指文字が有効であることを報告しており、聴覚障害者にとって筆談は会話を円滑に進める上では必ずしも好ましいものではない可能性がある⁶⁾。普段の生活上での友人や知人との交流の場所として、ろう高齢者はサークル・サロン・クラブ等を選択する者が多かった。

～中略～

またコミュニティカフェでの就労により、料理を学ぶことができるという声があった。コミュニティカフェでの就労は仕事のついでに新しいスキルを身につく場にもなり得る可能性が考えられる。高齢者にとって学習ごとに参加することが生活の楽しみ、自信、生活の満足度につながるということが報告されている⁷⁾。

コミュニティカフェでの就労とライフスタイル及び健康状態の関連性

～前略～

コミュニティカフェでの就労ろう者はBADLも維持され、転倒スコアも低かった。

また、コミュニティカフェにおける就労は、ろう高齢者にとって運動の機会ともなっていた。

～中略～

実際に活動量計のデータを解析すると、就労している間の生活活動量の強度及び活動時間を見ると、1人当たりの2 Mets 以上3 Mets 以下の活動強度の活動時間が平均で181.4±15.9分あり、3 Mets 以上4 Mets 以下の活動時間が16.05±5.2分あった。健康維持に有益だとされる1日3Mets以上の活動を1日15分間以上する運動条件をコミュニティカフェにおける1日の就労により満たすことができる¹²⁾。

～中略～

本研究の結果からは、ろう高齢者にとってコミュニティカフェにおける就労が、コミュニティカフェの場を形成し、共食の機会を提供し、運動を促進する重要な役割を果たしていることが示唆された。

—参考文献—

6)福田友美子、森本行雄、四日市章.「聴覚障害者のコミュニケーション手段の使用に関する実態調査」,Audiology Japan,1994;37(3):229-235

7)Dench,Sally,and Joan Regan.Learning in later life:Motivation and impact.Nottingham:DfEE,2000

12)Aoyagi,Y.,Shephard,R.J.,Habitual physical activity and health in the elderly:The Nakanajojo Study.Geriatrics&Gerontology International 2010;S236-S243